

第2回御殿場市市民協働型まちづくり市民会議 ワークショップ(1) 議事メモ

日時 : 平成16年8月17日(火) 19:00~21:00

場所 : 御殿場市役所第5会議室

参加委員 : 1班(土屋、芹沢、鈴木(喜)、南、勝間田、渡辺、吉福)

2班(佐藤、勝又、林、関田、大塚、山本、沓間)

3班(前田、佐々木、神保、三井、鈴木(雄)、田代、小林)

事務局 : 杉山、池田、鈴木(地域振興課)

山本、福嶋(株ダイナックス都市環境研究所)

1 会長あいさつ(芹沢)

市民会議の芹沢会長があいさつを行った。

2 ワークショップの進め方の説明(事務局:山本)

ワークショップでの議論の進め方やルール、今日の検討テーマについて、ダイナックスの山本が説明を行った。



3 各班での検討作業

- ・3班に分かれ、各班での検討作業を進めた。
- ・班ごとにコーディネーター(進行役)を決め、各人の自己紹介のあと、討議スタート。

今回のテーマ~「御殿場市における協働の現状と評価」

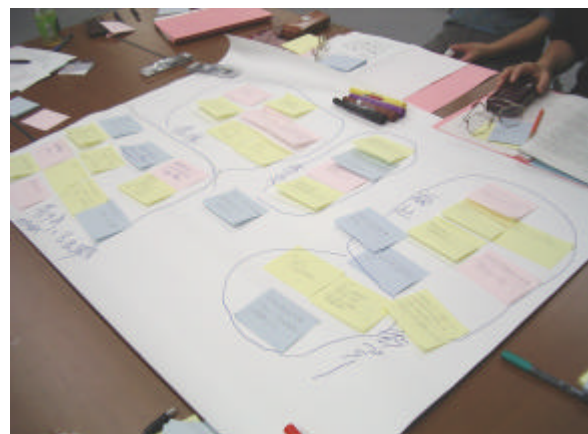
「こんな協働がある」という情報をみんなで出し合おう(20分)

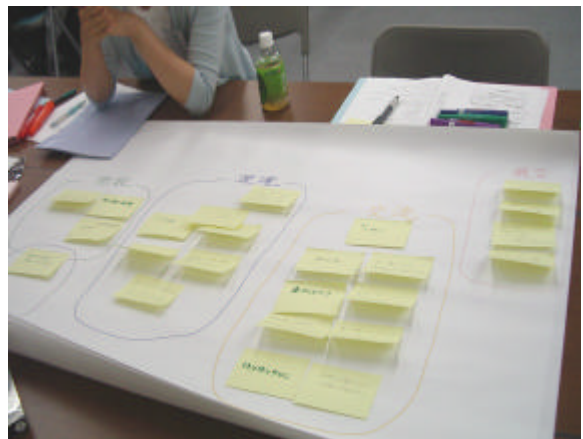
「協働」のスタイルを類型化してみよう(5分)

類型化したものについて、評価の意見を出してみよう(10分)

意見をグループ化して、整理しよう(5分)

【検討の様子】





4 グループ発表

各班のコーディネーターが検討の発表を行った。

1 班 (発表: 渡辺)

- ・協働の分類としては、「イベント」「リサイクル」「清掃」「自主防」「環境」「地域活動」などがあつた。「福祉」が最初少なかったが、後から加えた。
- ・協働の活動の問題点として、まず行政意識の問題で、市民との話不足、職員の意識が低いということがあげられた。また市民一人ひとりの意識が低いこと、ごみのポイ捨てなどマナーが悪いという意見もあった。さらに、企業の意識も低く、参画不足であるということもあげられた。
- ・この3者の問題として、情報の取りあいや理解不足、コミュニケーションが不足しているのではないかと。
- ・こういった問題の地域的な背景として、排他的であること、財産区の問題ということまで考えてみた。
- ・自治会組織については、存在はしているが形骸化している。
- ・ボランティアについては、がんばっているのだが、組織化していないこと、活動する人が固定化しており、増えていかないという問題がある。
- ・全体的に(行政も、市民も、企業も)将来を見据えた活動をしていないのではないかと、というのがこのグループのまとめである。



2 班 (発表：沓間)

- ・最後までじっくり議論して、これが御殿場の欠点だということを考えてみた。
- ・協働の現状分析では、大きく分けて「施設関係」「環境関係」「交流」「教育」、最後に「市全体の計画」などに分けてまとめた。
- ・環境の中では特にごみの問題などが多くあげられた。
- ・交流については、特に今が時期なので、盆踊りを含めた形での世代間交流がある。青年団がなくなってきた中で、有志の地元の人が地域を盛り上げている状況である。
- ・教育関係については、子供達との活動として、声かけ運動や消防団との活動、子供環境会議などがあげられた。
- ・施設・計画関係については、施設整備について協働で作業している例があげられた。
- ・次に課題としては、まず大人の問題として、自分の子供も叱れないのに、人の子供はもっと叱れない。昔は地域ぐるみで子供のしつけをしていたのに、今の親はろくなしつけが出来ていないこと。
- ・親だけではなく、学校側も、先生が勉強を教えるだけのサラリーマン化している。昔はこわかったが、今の先生はなめられている。先生も親も子供を叱れない。
- ・また協働の機会や場がないということで、本来は民間主導・行政支援という形が望ましいのだが、そういう意識が少ないこと。高齢者や女性の参加できる場が少ない。地域の中で世代間交流をする場が少ないことが問題である。
- ・各地域でやっていることが他の場所に広がっていかないという広報の問題もある。
- ・施設整備については、素案づくりを市民が出して、行政がバックアップし肉付けしていくような形をとれば、施設を大事に使っていくことになるのではないかと。
- ・最大の問題点は、御殿場の「古い気質」ということである。協力する人が少ない。いつも同じである。長老支配がある。古い行事にこだわって、若い人の意見を取り入れない。
- ・さらに、御殿場の気質が協働に合っていない。地元の人と引越してきた人との融和が足りない。など
- ・そして代表的な悪い気質であるが、課題に対しては、自分で解決するのではなく人任せ、行政まかせであることである。
- ・全体として、こういった悪い・古い気質を改善していかないと、協働の進展が見られないのではないかと、というのがこのグループのまとめである。



3 班 (発表：三井)

- ・自分たちがどういう関わりで協働の場面をもっているか、ということから話を始めた。
- ・大きな分類として、「環境問題」「防災」「福祉」「まちづくり」「青少年地域育成」などとなった。
- ・防災については、もっと協働の場面が必要である。高齢化社会に向けた福祉の充実も必要。
- ・まちづくりでは、市全体のビジョンを持つ必要がある。問題提起だけではいけない。
- ・課題としては、まず行政の問題として、問題提起しっぱなし、やりっぱなし、尻ぬぐいをしない、最後まで見届けられないことである。たとえばマイバックを市民に配っても、きちんと使われていないし、

いつまでも皆レジ袋を使っているのがいい例である。

- ・またりっぱな冊子を行政でつくっても、つくりっぱなしである。具体的に誰がどう分担し、進めていくのが明らかでない。無責任である。
- ・こうして協働型まちづくりの市民会議として集まっているが、市の職員が協働をどうとらえているのか。おそらく認識がまちまちであり、わからない人も多いだろう。役所の職員も共通理解できるような機会が必要ではないのか。
- ・コミュニティ活動では、それぞれがばらばらに活動している状況なので、連帯して問題解決にあたるような場が必要ではないか。(子供会、PTA、学校など)
- ・教育については、昔のように近所、部落で子供を育てるといったような教育は今はいらない。教育の根本にせまるようなことを地域で考える必要がある。
- ・福祉については、高齢者、定年退職者の力を活かせる社会づくりが必要である。
- ・行政バランスということでは、財産区の問題があるが、市の行政は平等であるべきというのが基本的な考え方ではないか。
- ・市のビジョンということだが、市の憲章には富士山という言葉があるにもかかわらず、富士山を活かしたまちづくりというビジョンが全くない。これが大きな問題である。



5 まとめ(山本)

各グループ、同じような意見が出たようだ。これを集約すると、大きな問題が浮き彫りになると思う。これから協働のあり方を考えていく上で骨格になる整理ができた。

次回は各論ということで、市民活動や団体について、次々回は行政について検討していくこととしたい。回数は当初の予定よりは増えることになると思う。

6 副会長あいさつ(田代)

市民会議の田代副会長が終了のあいさつを行った。

以上